

（左）諸君、其一致協力目的、貫徹之努力、之勝利、只因統一  
力ヲ待ソシト述（續）イテ石川忠司院（小石川労働会）山田  
忠夫、山本龍河院（日本労働党）廣水賢次、大隈向上  
會副會長（眞鍋義十、交々立々ヲ、資本主義ヲ難レ  
軍縮ニ基テ告警防止ヲ、海ニ又議會改選ノ義務ヲ語リ  
最後ニ向上會長（月井信）登壇シテ、我カ日本ノ産業革命ハ房  
働者ノ存在ニ基テ成リ、有身革命ノ不十分、理不生、産業革命ハ房  
働者ノ（國）富ハニ産業革命ニ在リ、我等ハ之ヲ、復スルメ、今日  
ノ、運命ヲ起ス所以ナルノ説キ又、コレヲ先演説中全ニ  
於テ左記ノ決議ヲスル

一、五五等ハ官書労働者同盟ニ於テ決議事項、性原ノ  
實行ヲ期ス（前報五五）

一、實行方法ハ關係團體交渉ノ上推行スルニテ  
右決議ス

大正十一年一月二十九日

小石川労働會

演説終了後豫定、如ク屋外運動ニ移リ一隊ヲ五十名宛  
トシ先頭ニ「失業防止」旗權振張リ、第一軍令部トシテ  
書見、旗旗ヲ樹テ向衆隊ヲ配シ、先頭ニ「労働者會」ト  
ルヲ、旗ニ「労働者」トテ、旗ニ「労働者」トテ、旗ニ「労働者」トテ、  
参加者ハ自ニ催側ヲ交附セシムル曰「九ノカ旗ヲ持テカ向カ  
時ニ配布セシムル労働歌、普通進歌ヲ印刷シテ紙片ヲ予ニ  
シ、時々労働歌ヲ吟唱シ、歌聲順路ヲ一週シ、飛鳥山ニ